

柔道と競輪。共に日本が生んだオリンピック種目です。しかし海外で行われる競技を見ると、一本狙いではなく返し技狙いのJUDO、ラインが形成されない力任せの走り決まるKEIRIN。本来日本の競技と比べて何か違和感を感じます。しかし少しぐらい形態が変わろうとも、競技がメジャーになるというメリットを鑑みれば、それほど大きな問題ではないのかもしれない。

畳業界でも「畳」ではなく「TATAMI」と表記した方が相應しい商品が多く出回るようになる

素描

TATAMI

岐阜県畳組合理事長 石河恒夫

りました。厚さ10mmの薄人工素材の良さ。メーカーやクッションのようにの新製品をただ販売するのではなく、畳店が素早く和紙や樹脂でできた材について十分に理解し、しかも絵の具のぱた上で、お客様に最も適した提案をしていく必要の畳を敷くこともできまがあると思ひます。

どこまでが畳と呼べ畳の文化を引き継いでいて、どこからがマットや床なのか。ビジネスでもTATAMIという代り以上、消費者のニーズ物なのか。いずれにしても一番です。大手メーカーも世には本物しか残らないはモダンな和室に相應いはずです。

しいTATAMIをどん私の中に畳の概念どん販売してきます。私は「新しい畳のいい句たち畳店という職人商売い」。これからも変わるでも新しい情報に目を向けないことにはなりません。長期にわたり執筆の機会けなくてはなりません。長期にわたり執筆の機会を頂きましたことに感謝

天然素材である蘭草やを頂きましたことに感謝の良さ、そして新しいいたします。